

令和7年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会会議録

議題	(1) 患者支援センターの業務実績について (2) がん相談支援センターの業務実績について (3) 救急搬送状況について (4) その他
日時	令和7年10月8日(水) 午後7時00分 開会 午後7時30分 閉会
場所	茅ヶ崎市立病院 別棟会議室
出欠席者氏名	(出席) 高山慶一郎委員長、下里隆史副委員長、山口哲也委員、大木教久委員、横山大樹委員、勝山貴美子委員、大久保敦子委員、北畑晶久委員 (欠席) 長岡健介委員、大久保一郎委員 事務局(中沢病院事業管理者、藤浪病院長、栗山副院長、岩澤副院長兼事務局長、山岡副院長兼看護部長、益原診療部長兼患者支援センター所長、中戸川診療部長、河野中央診療部長、高瀬医事課長、平山患者支援センター担当長、岡野がん相談専従看護師、高橋医事課主査)
資料	・地域医療支援委員会次第 1 患者支援センターの業務実績について(令和7年4月から6月の実績) ・紹介率・逆紹介率 (資料1-1) ・診療科別紹介率・逆紹介率 (資料1-2) ・茅ヶ崎市立病院 紹介元・逆紹介先医療機関一覧 (資料1-3) ・登録医救急診察専用回線による紹介患者集計表 (資料1-4) ・予約検査実績 (資料1-5) ・相談日誌(延件数) (資料1-6) ・退院支援実績 (資料1-7) ・小児周産期実績 (資料1-8) ・地域医療機関と連携した研修会等実績 (資料1-9) 2 がん相談支援センターの業務実績について(令和7年4月から6月の実績) ・がん相談支援センター実績報告 (資料2) 3 救急搬送状況について(令和7年4月から6月の実績) ・病院別救急車搬送件数の状況(茅ヶ崎市消防) (資料3-1) 科別救急車搬送件数の状況 ・茅ヶ崎市消防 茅ヶ崎市立病院搬送状況(行政地区別) (資料3-2) 4 その他
会議の公開・非公開	公開
傍聴者数	0名

●事務局（益原診療部長兼患者支援センター所長）

定刻となりましたので、令和7年度第2回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を開会いたします。本日は、皆様お忙しいところお集りいただき、ありがとうございます。

本日の司会進行を務めます、患者支援センターの益原でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、委員10名に対し8名の委員に出席いただいております、茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会規則第5条第2項の規定により、会議が成立しておりますことをご報告いたします。

それでは、議題に入らせていただきます。これより先の議事進行につきましては高山委員長にお願いいたします。

高山委員長、よろしくお願いいたします。

○高山委員

茅ヶ崎医師会の高山です。円滑な議事進行を心掛けてまいりますので、委員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

それでは議題に移ります。まず、議題1の患者支援センターの業務実績について、事務局より説明をお願いします。

●事務局（平山担当長）

それでは、令和7年度4月から6月までの患者支援センターの業務実績について説明させていただきます。

患者支援センター担当長の平山です。よろしくお願いいたします。

資料1-1をご覧ください。こちらは令和7年度の紹介率、逆紹介率の表です。紹介率の平均は78.1%、逆紹介率の平均は111.4%であり、令和6年度と比較すると紹介率は5.2ポイント増加、逆紹介率は2.8ポイント増加しています。

下段にあります、地域医療支援病院の承認要件2の紹介率65%以上、逆紹介率40%以上を満たしております。

資料1-2をご覧ください。令和7年度の診療科別紹介率、逆紹介率の表です。

右にある累計の欄をご覧ください。紹介率は、呼吸器外科100%、放射線診断科99.7%、眼科93.8%、リウマチ膠原病内科91.7%、代謝内分泌内科91.2%の順になっており、逆紹介率は腎臓内科、代謝内分泌内科、循環器内科、消化器内科の順になっています。

資料1-3をご覧ください。令和7年度の紹介元、逆紹介先の医療機関一覧です。紹介元医療機関名と紹介患者数、そのうち予約検査数、前年度実績、前年度比を表しています。

紹介元医療機関は、やまもと内科クリニック、藤川整形外科、水沼医院の順に多くなっています。逆紹介先医療機関は、やまもと内科クリニック、湘南いしぐろクリニック、藤川整形外科、大木医院、水沼医院の順に多くなっています。

前年度と比較して紹介患者数が最も増加したのは、7番の湘南藤沢徳洲会病院の57人増で、続いて6番の湘南いしぐろクリニックの47人増、3番の水沼医院の34人増、5番の前田整形外科・内科クリニックの27人増になっています。

資料1-4をご覧ください。令和7年度の登録医救急診察専用回線、循環器ホットラインの紹介についてです。

対応件数は189件で、前年度より26件増加しました。小児科への紹介が全体の42.9%を占めています。紹介患者さんのうち、入院につながったケースは73件で、前年度と比較すると1件減少しています。なお、入院割合は全体で39%で前年度から6ポイント減少となりました。

資料1－5をご覧ください。令和7年度の予約検査の件数表です。

C T、MR Iについては検査需要が高く推移し、C Tは181件で前年度比101.7%、MR Iは293件で前年度比119.1%となっています。

資料1－6をご覧ください。令和7年度月別相談延べ件数表です。

相談対応は看護師と社会福祉士が行っており、4月から6月は新規655件、継続が1,625件の合計2,280件で前年度より98件増加しています。また、相談対応延総数は3,018件で前年度より53件増加しています。

M i x J a mクラウドを活用した転院調整は131件で、前年度より51件増加しており、湘南東部二次医療圏以外のA O I七沢リハビリテーション病院、ふれあい平塚ホスピタルがシステムを利用し、利便性が高まっています。

相談対応の多い項目としては、在宅退院に向けての退院相談が最も多く817件、次に転院に向けての退院相談が706件、続いて社会福祉制度の相談が419件となっています。

対応方法は電話での相談対応が1,033件と最も多く、対面での相談件数は894件となっており、令和6年度と比較するといずれも増加しています。

資料1－7をご覧ください。令和7年度の入退院支援の実績表です。総退院患者数は2,713名、そのうち退院支援スクリーニングで該当ありの患者が2,067名、入退院支援加算1算定患者は1,922名、入院時支援加算算定患者は897名、その他、退院前後訪問指導件数、介護支援連携指導数のデータになります。介護支援連携指導を除いたすべての項目で前年度を上回っています。

資料1－8をご覧ください。令和7年度の小児周産期医療に関するデータになります。分娩件数が92件、母体搬送数は6件、新生児搬送件数は12件で前年度を下回っております。訪問型産後ケアは4件、令和6年度から開始した日帰り産後ケアは4件の利用がありました。また、メディカルショートステイは8件対応しています。

資料1－9をご覧ください。令和7年4月から6月までの地域医療機関と連携し、茅ヶ崎市立病院で開催した研修会等の実績になります。合計6回開催し、198名が参加されました。研修会や症例検討会などカンファレンスを通じ、顔の見える関係性と連携強化を図れるように継続的に進めています。報告は以上になります。

○高山委員長

説明が終わりました。議題1について、委員の皆さんからのご意見、ご質問をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○高山委員長

特に質問等ないので、議題1については終了したいと思いますがいかがでしょうか。

ご異議がないのでこれで終了とさせていただきたいと思います。続いて議題2のがん相談支援センターの事業実績について、事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（岡野看護師）

はい。がん相談支援センターを担当しております、がん相談専従看護師岡野です。よろしくお願いいたします。

それでは、がん相談支援センター令和7年度4月から6月の業務実績についてご説明いたします。資料2をご覧ください。1)の令和7年4月から6月までの延べ相談件数は578件と前年度より105件増加しました。また、相談実人数は195名で前年度より42名増加しました。同日に来られた方の相談に対して対応ごとにカウントしていますので、関わっていく回数に伴い多くなっています。また、継続して関わる方の中で不安が強く、話を聞いてほしいなどで受診の際に来られる方もいます。

最も多い相談回数は21回で、5回以上相談のあった方は24名おり、一人当たりの平均相談件数は3回でした。相談対応が重なる場合には、患者支援センターのスタッフに対応を依頼し、相談予約で後日対応しています。介入ケースによっては、地域包括支援センターや訪問看護などと情報共有しながら進めています。

2)の受診状況別がん相談件数に関しては自施設通院中が436件、自施設入院中が120件、他施設が16件、匿名その他は6件でした。

3)の受診状況別相談方法は、対面相談が468件、電話相談が110件でした。

4)のがんの主たる部位については、相談の多い部位で乳房が65件、肺が21件、前立腺が18件、大腸が17件でした。こちらに関しては、乳腺外科、消化器内科、泌尿器科、婦人科など告知から同席するケースや、ある程度抗がん剤の治療が進んできた段階で医師から介入を受けるケースがあるためです。また、医師事務や看護師、地域包括支援センターや訪問看護師などから情報があり、介入するケースなどもありました。

5)のがんの状況については、初発が428件、再発・転移142件でした。

6)の現在の治療状況については、治療前が121件、治療中305件、治療後6件、緩和ケアのみ72件でした。

全ての項目の中で不明やその他に関してですが、がん相談支援センターでは匿名の方などもお受けしています。その為、相談の際に詳細内容を話したくないという方もおられます。分かる範囲でのご相談とお伝えし、情報提供などを行っています。

7)の相談内容の内訳については、症状、副作用、後遺症などの相談が386件、不安、精神的苦痛が382件、がんの治療について266件、患者、家族間の関係94件、在宅医療61件、ホスピス緩和ケア42件となっていました。

患者と家族間の関係についての具体的な相談内容は、入院や通院などで家を空けなければならないため、家事ができない家族が心配、希望しているホスピスが遠方で家族が面会に来るのが大変、自宅で最後まで過ごしたいが家族の介護負担を考えホスピスなどを希望される方など、いずれも家族の事を思いやって悩まれるケースがあります。双方の思いをお聞きしながら調整しています。グリーフケアに関しては、ご家族がお亡くなりになったとご挨拶に来られるケースがあり、その際にご家族の思いをお聞きしています。また、一度の相談に複数の相談内容がある場合が多く、相談件数と一致しません。

8)のがん相談支援センターへの専門家派遣依頼件数についてです。がん相談で相談を受けて神奈川県がん・疾病対策課に連絡し、派遣を要請します。調整するまでに1から2週間程度期間を要しています。あらかじめ患者さんには少し時間がかかることをお伝えし、その上で調整をしています。

社会保険労務士に関しては、急いでいる場合などもあり、その方の状況により神奈川産業保健総合支援センターの相談窓口をご案内しています。こちらについては電話やメールでのご相談になり、場合によって面談対応になるとのことです。体調によって神奈川産業保健センターまで出向くことが難しい場合は自宅近くの公民館などに来てくれるそうです。

専門家派遣依頼に関しては、相談対応の中で患者さんにご案内をしていますが、今年度は今のところ希望される方はいらっしゃいません。

今後も引き続きが相談支援センターの支援、対応してもらえるように周知活動を続けていきたいと考えます。

説明は以上になります。

○高山委員長

はい、説明が終わりました。議題2について、委員の皆様からのご意見ご質問をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

はい、大木先生。

○大木委員

資料2の2)にある受診状況では、がん相談件数の年次推移で2024年度から市立病院に通院中の患者さんの相談件数がものすごく増えていますね。

そして、2025年度も3ヶ月で400件以上という数字を考えると、このコロナ禍で相談が少なかったのか、それとも飛び抜けて2024年度からは市立病院に通院してる、がん患者さんの全体数が増えたのでしょうか。相談率が増えたのか、がんの母数が増えたのかという質問です。

○高山委員長

はい、いかがでしょうか。

●事務局（岡野看護師）

はい、ご質問ありがとうございます。こちらに関しては延べ件数で出しております。

ですので、1人の患者さんに複数回、1日の中でやり取りをした件数がカウントされていくので、少し数字が多くなっています。

○高山委員長

では、がんの患者さんの数はそれほど増えてないけども、1人に対する相談回数が増えたということではよろしいのでしょうか。

●事務局（岡野看護師）

がん登録の方の2024年のデータがまだできていなく、今回のその数がどうなのかというところは分からないというところもあります。

○高山委員長

大木先生、よろしいでしょうか。

○大木委員

がん患者さんの数が増えてくということは自然なことかなと思いますが、相談件数が伸びているということは、それだけ相談に乗れているということで、すごく好印象です。良いことではないかと思っております。

●事務局（岡野看護師）

ありがとうございます。

○高山委員長

その他、何かご質問はございませんでしょうか。

○高山委員長

ではないようですので、議題2については終了させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。異議なしということで、議題2については以上を持ちまして終了といたします。続いて議題3、救急搬送の状況について事務局より説明をお願いいたします。

●事務局（高瀬医事課長）

続きまして、議題3救急搬送状況について、ご説明いたします。

説明は医事課長の高瀬が説明いたします。資料については、資料3-1と資料3-2でございます。それでは資料3-1上段の表をご覧ください。こちらは、茅ヶ崎市消防の救急搬送件数を搬送先の医療機関ごとに月別で集計したものでございます。表の右側、年度累計当月までの欄をご覧ください。

こちらは、茅ヶ崎市消防から今年度6月までの合計搬送件数、それから前年度同時期の合計搬送件数を割合で表したものでございます。今年度6月までの茅ヶ崎市消防の全体搬送件数につきましては、3,758件で前年度の3,737人から21件の増加をしているところでございます。

当院への搬送件数につきましても1,182件と、前年度の1,059件から123件増加しておりまして、搬送割合につきましても今年度は31.5%と、前年度の28.3%から3.2ポイント増加しているところでございます。

他院への6月までの搬送状況につきましては、茅ヶ崎中央病院が0.4ポイント改善している他は減少傾向となっております。その代わり当院への搬送割合が増加しているといった状況でございます。

続きまして、下段の表をご覧ください。こちらは、診療科別に救急車の受け入れ件数と、そこから入院した患者数を表したものでございます。表の1番下、入院率をご覧ください。今年度の4月から6月までは各月とも入院率が35%を超えておりまして、特に4月は39.2%と40%に近い入院率となりました。表の右側、年度累計当月までの入院率、1番下の方を見ていただきますと、前年度39.6%に比べて今年度の利率37.6%と2ポイント減少しているところでございます。

これにつきましては、そのすぐ上の計の部分になりますが、まず件数につきましては、前年度1,114件から今年度1,222件と108件増加しているところでございますが、救急車の受け入れのところで、件数につきましては、前年度441件から今年度460件と19件の増にとどまったということが原因かと考えているところでございます。そのため、前年度に比べ受け入れ件数も入院件数も増えてい

るところでございますが、入院率については減少したと分析しております。

続きまして、おめくりいただいて、資料３―２をご覧ください。こちらは、４月から６月までの茅ヶ崎市消防による市立病院の搬送件数の割合を行政地区別に分類したものでございます。資料の下側にある合計欄をご覧ください。表の１番右の３１.５％が３―１の資料でお示した茅ヶ崎市消防からの市立病院に搬送された割合でございます。

当院に搬送される患者さんの地区別の割合につきましては、松林地区からの搬送割合が最も多く３１.８％、次に鶴嶺地区からが２７.２％、茅ヶ崎地区から２５.５％の順となっております。

また、各地区の当院への搬送割合につきましては、すべての地区でこの期間におきまして前年の実績を上回っている状況でございます。説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○高山委員長

はい、説明ありがとうございました。議題３について、委員の皆様からのご意見、ご質問等はございますでしょうか。

○高山委員長

ご質問がないようなので、議題３についてはこれで終了とさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。では、異議なしということで議題３は終了といたします。

続きまして議題４、その他について、事務局および委員の皆さんから何かございませんでしょうか。

○高山委員長

特になければ本日の議題は全て終了いたしました。

事務局から、次回の会議について日程を報告していただけますでしょうか。

●事務局（高橋医事課主査）

はい、ありがとうございます。

次回、令和７年度第３回の地域医療支援委員会は、令和７年１２月１８日木曜日１９時から、同じくZoomによるオンラインにて開催予定となっております。よろしくお願いいたします。

○高山委員長

それでは各委員の皆様、ご出席、ご参加等よろしくお願いいたします。

皆様、ご協力ありがとうございました。

以上をもちまして令和７年度第２回茅ヶ崎市立病院地域医療支援委員会を終了といたします。

どうもお疲れ様でした。